

膝が痛くても行っちゃう・四月の日向山

新田 由紀子

膝関節の老化で軟骨がほとんどない、とお医者さんは言う。レントゲンを見せられる度に悲しくなる。ずいぶん使ってきたんだな。あちこち山を登ったし、街中ですらよく歩いた。それで膝がすり減ってしまったんだ、とうなだれてはみるが、おいそれと諦めきれないのが山歩きの楽しみ。

町にソメイヨシノが咲きそろう頃、山里ではカタクリ、レンギョウ、スミレ、花桃がおのずと春を奏でる。木々の芽吹きと花々の共演を見に行かないではいられない。

明日は晴天という日。日帰りザックを出して枕元に。鎮痛剤とサポーターも。これでそろりと歩けばなんとかなる。行先は奥武蔵。山村巡りも楽しい気軽なハイキングエリアだ。

目が覚めたのは八時。山行にあるまじき寝坊。お弁当の用意も省いて家を出た。飯能駅で西武秩父線に乗り継ぐと、電車は奥武蔵の連嶺を正丸峠でくぐって秩父へ抜ける。盆地に入る最初の駅芦ヶ久保で降りたのは十一時。駅から見上げれば、右にせり上がるのは埼玉県民の森「丸山」。その稜線に低く連なるのが「日向山」(六三三^ぶ)。木組みの展望台がかすかに見える。その下まで果樹公園村の人家と山畑が麓から繋がっている。

遅立ちついでに道の駅を覗くと、いい匂いがする。葱味噌をお焼きで包んだ名物「たらし焼き」とか。これを一つぱくついて、「ずりあげうどん」とかも。まさかの行動前の満腹だ。ビールの誘惑を振り切って初志貫徹と、ザックを背負って果樹畑の急勾配へ歩き出す。「風の道」といっれつきとしたハイキング道もあるが、今日の不心得者には村の生活道の方が諸々安心だ。ひたすら一時間ほど上がると、申し訳程度の山道があつて、そこを登れば頂上に出る。うらうらと陽が当たっている。小山ながらも眺望絶景。秩父の盟主武甲山は手をのばせば届きそう。厳寒期に大持山・子持山の稜線を縦走したっけ。もう、あんな無茶はしない。いつでもこの特等席から眺めることができるから。